

事業名	日本語教室事業				
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)	
令和2年度			委託料518,000	委託料386,000	
令和3年度			委託料495,000 使用料及び賃借料 35,000	委託料386,000 使用料及び賃借料0	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	▼狛江市前期基本計画 まちの姿6「人権が尊重され、市民が主役となるまち」 施策1-①「平和の希求・人権の尊重」方向性4「多文化共生社会の推進」 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性1「学びの環境づくり」 ▼第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(3)教育環境の整備 ③個に応じた教育の実現に向けた環境整備 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり			
事業目的	国際理解及び国際交流の一環として、外国から来た方々に対して、日本語の学習機会や日本の文化と生活規範の継続的な学習機会を提供する。	持続可能な開発目標 (SDGs)			
事業内容	開催頻度	毎週土曜日 午後7時～9時 (計28回開室)			
	新規・継続	継続	実施主体	市	
	実施対象	外国籍の方 日本語学習を支援したい方	参加者数	延614人 (生徒284人)	
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価	
	＜周知＞ 市民に周知されているか	広報こまみやチラシ、教育委員会及び市民活動支援センターHPにて周知を行った。また、新規の協力者(指導ボランティア)向けに、毎年説明会も実施している。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	＜環境＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	インターネットを活用したリモート授業やオンライン教材について導入できないかを令和3年度から検討した(令和4年度に導入)。親子連れの生徒がいた場合に、子どもを幼児室で見守るスタッフが不足しているのは課題と言える。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	生徒及び指導者の登録者のうち、約7割の方に年間を通じて参加していただいたことから、参加者からは一定の支持をいただいていることが分かる。さらなる事業改善に向け、指導者や生徒のニーズを把握する必要がある。		公民館 B	公運審 A
全体 A					
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	日本語学習の支援だけではなく、外国籍の方と触れ合うの交流の場にもなっている。ただ、コロナにより、以前は実施していた日本文化の学びの提供(館外授業)やスピーチ大会(いべんと西河原)が出来ていないため、代替案を検討する必要がある。		公民館 B	公運審 A	
			全体 A		
＜居場所＞ 参加者の居場所と成り得るか	生徒及び指導者の登録者のうち、約7割の方に年間を通じて参加していただいたので、参加者の居場所の一つになっていると言える。コロナ禍により、参加者同士の仲を深める懇親会(飲食を伴うもの)等が中止となってしまったため、来年度以降できるよう工夫したい。		公民館 B	公運審 A	
			全体 A		
今後の課題	▼協力者及び学習者の満足度やニーズを客観的に把握できるようにするため、アンケート等を実施する。 ▼インターネットを活用した事業(リモート授業やオンライン教材)を取り入れ、参加者のさらなる利便性の向上を図る。 ▼コロナ禍においても、生徒の日本語学習における集大成を発表する場や、参加者同士の懇親を深める場を提供できるようにする。 ▼子どもの見守りを担うスタッフの充実を図る。				
総合評価	▼コロナ禍をきっかけに、インターネットを活用した事業の実現に向けて、準備ができた点は良い。引き続き、インターネットを活用した教室の運用方法について検討いただきたい。 ▼手指の消毒や検温、マスクの着用等を徹底し、新型コロナウイルスの感染者を出さずに無事に閉校式を迎えることができことは良かった。館外授業や懇親会等が中止となってしまった場合でも、その埋め合わせができるような代替策を用意しておいていただきたい。				